

ひと
女ひと
男

男女が共に生きるメッセージ



パートナーシップ

問合せ先 企画課男女共同参画推進係 ☎72-2111内線222

\自主防災組織編／

男女が参画する地域づくり

市内では、全ての行政区が自主防災組織を設置し、各地域で防災活動が進められています。防災活動では、年代や性別の異なる多様な人への配慮が欠かせません。今回は、自主防災組織の運営や活動に必要な男女の視点をご紹介します。



水も食料も備蓄しているし、備えは十分！

着替えや生活用品も用意していますか？

避難生活で必要になるのは、水や食べ物だけではありません。特に女性の生理用品や下着、乳幼児の紙おむつなどは、十分に手に入らないことがあります。

家庭と地域の両方で備蓄しておく心安心です。



避難所で、部屋分けは必要？

授乳室や男女別の更衣室などが必要です

部屋分けだけでなく、トイレを明るく人通りのあるところに設置するなどの配慮も必要です。女性や高齢者、子育て世代など、地域のさまざまな人の意見を取り入れることで、生活しやすい避難所になります。

近所に住む、一人暮らしのお年寄りが心配



避難の際に支援が必要な人を把握しましょう

高齢者や障がい者、妊産婦、外国人などは、避難の際に支援が必要です。福祉や医療、介護には女性が多く関わっていることから、女性も自主防災組織に参画することで要支援者の情報を集約しやすくなります。

炊き出しは、女性に任せよう！



性別ではなく、個人の特性で役割分担を

男性だから、女性だから、と性別を理由に役割分担をするのではなく、全員が協力しましょう。交代制などで負担を軽くすることも重要です。

避難生活の悩みを話せるように
相談窓口をつくろう

リーダーや相談員は、男女とも配置して

慣れない避難所での生活では、悩みや困難を抱える人が多くなります。でも、異性には話しにくいこともありますよね。避難所のリーダーや相談員には、男性も女性も配置しましょう。



リーダーや相談員は、私には荷が重くて…

だからこそ、
自主防災組織に参加しましょう！

災害時、突然リーダーや相談員を引き受けるのは大変ですね。平常時から訓練や話し合いに参加していれば、地域の状況や役割を知ることができます。

また、男性も女性も、みんなで関わることで、一人ひとりの負担を減らすことができます。

男性も女性も、みんなが防災の担い手となることで、地域の防災力を高めることができます。
一人ひとりが自主防災組織に参加し、男女の視点を地域の防災活動に取り入れましょう。



おごおり女性ホットライン

☎092-513-7337

月～金曜日／午前10時～午後5時

(祝日、12月29日～1月3日を除く)

配偶者や恋人からの暴力についての相談のほか、セクシュアル・ハラスメントや仕事、地域、家庭のことなどさまざまな悩みに専門の相談員が対応します。

配偶者や恋人からの
暴力に悩んでいませんか？
ひとりで悩まずに相談して
ください。